

帯笑園保存会 会報

いよいよ帯笑園が開園

平成十三年の千葉大学小野佐和子先生の講演を契機に始まった、帯笑園保存会が中心となつて帯笑園の保存を市に要望する運動が実を結び、ようやく沼津市による整備が実現しました。

四月二十九日、市主催の記念式典があり、頼重市長、奥村教育長の挨拶に続き、祝辞を述べた渡部議長、文教関係地元選出の市会議員はじめ来賓や関係者多数の出席により賑やかに執り行われました。子供たちによる白隠太鼓の演奏が式典を盛り上げました。

式後、樹木医による講演会が開催され、参加者たちは園内を見学したり、えびね山野草展、原婦人会茶道部による点前を楽しんでいました。



発行元 保存会事務局
発行責任者 鈴木 泰次
2020年 3月30日
No. 10

地球温暖化の影響により

桜草鑑賞会は日程を前倒しに

例年、桜草鑑賞会は四月二十九日に開催していましたが、ここ数年は開花時期が早まり、二十九日開催では鑑賞に堪えないという悲痛な訴えが関係者から寄せられました。そこで、やむを得ず二週間早め、十四日開催としました。琴の演奏会、茶会の同日開催が望ましかったのですが、茶会は原婦人会総会と重なり難しくなったため、江戸後期に売茶翁が帯笑園で広めた故事にちなみ煎茶道の茶会開催を検討しました。

幸い、黄嬖弘風流煎茶道の関係の方々にご協力をいただくことができ、西蔵を会場にして立礼席の茶会を催すことができました。

琴についてはいつものように渡辺富鳳、鳳代賀先生と関係の皆様により臨春亭で演奏していただくことができました。桜草はちょうど見頃で、沼津さくらそう会の皆様のご協力により、晴天の下で鑑賞会を開くことができました。



愛鷹野山草展

昨年度から出展している愛鷹山草会による山草展が、春（五月二十五、六日）、秋（十月二十六、七日）の二回、開催された。会場の西蔵には、自慢の作品が多数展示され、興味深げに鑑賞する来場者の姿が眺められた。西蔵の外では、山野草の育て方を聞き、気に入った鉢物を購入する来場者も多く見られ、帯笑園での山野草展を通じて趣味の世界が広がって行くことを期待したい。



ウチヨウラン展

くださっている。毎年六月半ば頃なので、雨を避けて西蔵の中で展示を設けている。草丈は低く、花も小ぶりだが、何とも言えず愛らしい。花期は約一か月と長く、水やりを忘れなければ初心者でも育てられる。今年こそはぜひ挑戦してみたら、いかが？

六月十五日(土)、十六日(日) 西蔵
 今回で四回目の開催
 ニュータウンにお住まいの佐野光弘会員
 が、仲間とともに作品を持ち込んで開催して

真柄光男陶芸展

六月十五日(土)、十六日(日)
 臨春亭
 原町中にお住いで、定年退職後に陶芸を始めて二十年になるが、その間に独学

で各地の様々な作風を調査研究し、試行錯誤を繰り返し、独自の焼き方を完成させた。その努力の甲斐があって数々の賞を獲得した真柄さんの作品展を臨春亭で開催することができた。



薩摩琵琶演奏会

十月五日(土) 午後七時
臨春亭

錦心流琵琶全国一水会に属し、活躍中の富士市吉原の久保田湖水先生にお世話をお掛けして薩摩琵琶演奏会を開催することができた。今回で四回目になるが、毎回、大変好評をいただいている。

臨春亭前庭を客席として演奏を聞かせていただくことから、毎回天候が心配になるが、晴天に恵まれ秋の夜空の下で素晴らしい演奏を聞かせていただくことができた。演目は、初心者にも分かりやすい、那須与一にちなむ「屋島の誉」、義経の愛した「静」、新しいところで菊池寛の「恩讐の彼方に」を選んでいただき、琵琶の演奏を大いに堪能することができた。最後に、先生の発声に続き「祇園精舎の鐘の声」を皆で吟じて会を閉じた。



秋色コンサート

十一月二日(土) 午後二時
西蔵

市教委が長らく開催して来た童謡フェスティバルや全国子守唄サミットなどで活躍されたお二人によるコンサート。ソプラノの鈴木みさほさん、ピアノの西山和枝さんによる懐かしいメロディーが会場に流れると、そこは時空を超えた別世界のよう。「里の秋」、「ふるさと」をくちずさむ参加者たちの思いはいかばかりだったか。

歌の散歩 キラリ

十二月十四日(土) 午後二時
西蔵

定年退職してゆとりができたのを契機に、若いころ親しんだ楽器を演奏しようと思いがつた四人の仲間。原東町の大西さんが代表を務める。七十年代の懐かしいフォークソングを中心にした演奏会が開かれた。せっかくの演奏会も披露する場が見つからないことが多いことから、ぜひ帯笑園でコンサートを開催してほしい。



ステンドグラス展

十一月二十九日〜十二月一日
西蔵

三島市のサークルにより帯笑園では初の開催となった。一般にはなじみが薄いが見事な作品が展示されていた。



クリスマスローズ展



二月十五日(土)、十六日(日)
西蔵、園内展示棚
井出・杉光園芸共催

今も人気の高いクリスマスローズを栽培している井出の杉光園芸の協賛を得て、初のクリスマスローズ展を開催する運びとなった。

大きめの鉢に植えられた花は、様々な色合いや形で咲き誇り、見事というほかない。うつむき加減に咲く姿は憂いを含んでいるようで、優しく声を掛けて上げたいほどだ。

二日間の会期中に大勢が訪れ展示を楽しんでいた。

園芸部が発足、活発に活動を開始

帯笑園のガイドをする会員を中心に、園庭と植栽の再整備に取り組みこととなり、昨年九月に「園芸部」が発足しました。帯笑園は、庭の景観ではなく、種類が豊富で珍しい品種の園芸植物の鑑賞を目的とした庭園でした。花長者と呼ばれた豪農植松家の財力に依拠したものでしたが、沼津市が管理者となった現代において、昔日の帯笑園の復活は望むべくもありません。

せめては、帯笑園ゆかりの植物について再認識を広めることが帯笑園保存会の目指すところであり、一例を挙げれば桜草鑑賞会の開催であり、市による牡丹や芍薬、蘇鉄の復元の試みであったりするのです。来園者を案内する中で、庭園の魅力を高め通年で愉しませる方策を講じたいとの感を強く抱き、このたびの園芸部会の発足に至ったものです。



本年に入り、園内で栽培するミズバショウなどの移植、蓮の植替え、最新の管理方法による樹木の養生作業に取り組みなどとして、意欲的に活動しています。見学者に楽しんでもらえるような庭の再整備には多くの時間と労力がかかることですが、今から始めなければと、張り切っています。



鈴木先生の指導で園内の植生観察



樹木医による講演と実地指導



ミズバショウ、コウホネなどの解説

そうはいっても、素人の集団であり、考え方も多様であることから、「浮島沼の自然・里づくりの会」で実績のある鈴木昌宙先生から園内の植物の観察を始めとする指導を、市が委託した樹木医からも樹木の管理について指導を受けるなどして、実践的な経験を積むこととしました。